

第52回全国豆類経営改善共励会の結果について

(公財)日本豆類協会

令和5年産の豆類生産で、特に経営改善の面から先進的で他の模範となる豆類生産農家及び生産集団を表彰する第52回全国豆類経営改善共励会（主催：全国農業協同組合中央会、株式会社JA新聞連）の表彰式が、令和6年6月14日に明治記念館（東京）にて開催されましたので、その概要を報告します。

1. 応募者と全国審査会の状況

第52回全国豆類経営改善共励会への参加点数は186点で、内訳は大豆家族経営の部80点、大豆集団の部36点、小豆・いんげん・落花生等の部に70点でした。

都道府県、ブロックの審査を経て、5月24日に全国審査委員会が対面形式で開催されました。同審査委員会には、國分牧衛審査委員長ほか8名が出席し、厳正なる審査を経て農林水産大臣賞をはじめ各賞を決定しました。なお、日本農業新聞会長賞の該当はありませんでした。

受賞者は、いずれも高収量・高品質を実現されながらコスト抑制も達成しており、その技術・経営内容は他の模範となるものと高く評価されました。

2. 表彰受賞者

①農林水産大臣賞	
大豆 家族経営の部	白井富高（北海道小清水町） 株式会社荻原農園 代表取締役 荻原拓重（山形県高畠町）
大豆 集団の部	農事組合法人秋津宮農組合（熊本県熊本市）
小豆・いんげん・落花生等の部	中村裕一（北海道訓子府町）
②農林水産省農産局長賞	
大豆 家族経営の部	江口和広（佐賀県白石町）
大豆 集団の部	富永生産組合（宮城県大崎市）
③全国農業協同組合中央会会長賞	
大豆 家族経営の部	有限会社北井農産 代表取締役 北井博士・取締役 北井芳美（石川県白山市）
④全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞	
大豆 集団の部	農事組合法人エコファーム水牧（富山県小矢部市）
⑤日本豆類協会理事長賞	
大豆 家族経営の部	株式会社河野農産 代表 河野昭久（大分県国東市）

● 3. 農林水産大臣賞受賞者・団体の経営概要 ●

(1) 大豆 家族経営の部：臼井富高氏

臼井氏は、大豆「とよまどか」を種子生産主体に約4ha作付けしています。単収は415kg/10a、過去3年間、300kg/10aを超えています。また、2等以上格付及び種子大豆合格数量の割合が連年ほぼ100%と品質面でも優れています。

オホーツク畑作地帯の従来の典型的な3作物による輪作体系（馬鈴しょー小麦一てん菜）に先進的に大豆を導入し、4作物の輪作体系を確立しています。地力維持のため、近隣酪農家から入手した堆きゅう肥と小麦収穫後の緑肥（エンバク）を施用し、地力維持を図っています。

(2) 大豆 家族経営の部：株式会社荻原農園代表取締役 荻原拓重氏

荻原拓重氏は、12.6haの大豆とほぼ同面積の水稻を合わせて栽培しています。品種は実需に対応して「すずかおり」、「あやこがね」、「秘伝」、「シュウリュウ」の4つを作付けしています。単収は品種によって異なりますが、主力品種の「すずかおり」は352kg/10aと高く、品質も上位等級比率87%を達成しています。

栽培技術面では、プラソイラ利用と明渠による排水対策の徹底、こまめな中耕・培土による除草、ドローンを活用した農薬の適期散布に努めています。

販売面では、「すずかおり」を地場の納豆用として供給しているほか、「秘伝」は数種類の菓子材料として委託加工し、直売施設で販売しています。

(3) 大豆 集団の部：農事組合法人秋津営農組合

秋津営農組合は、142戸の農家を構成員とし、大豆約85ha、水稻77ha、麦類約133haをオペレーター11人で運営し、水稻—麦類—大豆のブロックローテーションを実施しています。平成28年熊本地震による給排水施設の被災により一定期間、輪作体系が崩れましたが、施設復旧に伴い従前の体系を復活させています。単収は220kg/10a、上位等級は約87%でした。

栽培技術面では、堆肥施用による地力維持に努め、暗渠逆流によるかん水を実施し生育後期の干ばつ軽減に留意しています。

(4) 小豆・いんげん・落花生等の部：中村裕一氏

中村氏は、約3haに小豆を作付け、309kg/10aの単収と上位等級100%を達成しています。過去3年間も、単収300kg/10a以上、上位等級100%であり、安定して高品質多収を達成しています。特に、異常気象で北海道の単収が139kg/10aであった令和5年においても300kg/10aを超える単収を確保したことは特筆に値します。

小豆は6年ごとの作付けとなる輪作体系を採用し、栽培技術面では、化成肥料の節減とバーク堆肥の施用による地力維持、冬季の雪踏みによる土壤凍結深制御などを行っています。また、落葉病抵抗性を有する新品種「エリモ167」を採用、5回にも及ぶ中耕・培土を実施しています。



農林水産大臣賞の授与(臼井富高氏)



農林水産大臣賞の授与(荻原拓重氏)



農林水産大臣賞の授与
(農事組合法人秋津営農組合)



農林水産大臣賞の授与(中村裕一氏)

4. 表彰式

第52回全国豆類経営改善共励会の表彰式は、令和6年6月14日(金)14時から明治記念館にて開催されました。

当日は、ご来賓の鈴木憲和農林水産副大臣のご臨席の下、主催者の杉山隆之全国農業協同組合中央会農政部長をはじめ関係者多数が参列し、祝辞、表彰状の授与、審査講評、受賞の言葉などがつつがなく執り行われました。

鈴木副大臣からの祝辞では、食料・農業・農村基本法改正に触れつつ、課題解決に向けて一緒になって考え取り組んで行きたい旨を述べられ、國分委員長による審査講評では、今回は単収が400キロを超えるまたはそれに近く、かつ品質も上位等級比率が100%ないし高い経営体が出て、近年になく審査をしていて嬉しい思いであったこと、これらは受賞者のひとつひとつの積み重ねの結果であることに言及されました。

受賞者を代表して中村氏が受賞の言葉を述べる中で、訓子府町に根付いて4代目の自分がこうして受賞したことはひとえに家族、仲間、地域のおかげであり感謝したいこと、近年の極端な気象に対応するため小豆の植物としての能力を生かし更なる改善を図るべくより一層努力すること、大好きなあんこのために全国に小豆を届けたいことを述べられました。

また、表彰式の後には懇親会が行われましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりこのような懇親会は令和2年から5年までの4年間は見送られており、久しぶりの開催になりました。ここでは、豆を含む美味しい料理が提供され、和やかな歓談のなか、各賞を受賞された皆様から経営や栽培の工夫などの苦労話や今後の抱負についてスピーチがありました。

なお、第52回全国豆類経営改善共励会の結果については、表彰式当日の日本農業新聞に掲載され、広く関係者に周知されました。



鈴木憲和農林水産副大臣からの祝辞



國分牧衛審査委員長による審査講評



受賞の言葉(中村裕一氏)